

一般財団法人 水西倶楽部

特別ゼミ「歴史の真実を問う」Part7

特別ゼミ代表 隅喜彦

日本の国ほど、多様な要素をもつ歴史はありません。国の形の出来てくる古代には神話があり、中央集権の律令制、公家による平和な貴族政治、戦国時代で日本中が戦に明け暮れた時代、武家による地方分権の幕藩体制、西欧化の時代というように、平和あり、戦ありという歴史を積み重ねてきました。そうした中で多様な文化を生みだし、その文化を担う天皇、文化人、武人など著名な偉人をたくさん輩出してきました。

この三千年にわたる長い歴史を通観してみて気付くのは、我が国には変わるものと変わらないものがあるということです。歴史を縦に通して文化的に不易の部分も持っているというのは、日本文化の特色でもあり、強みでもあります。不易の部分は変わらないということです。しかし、不易の部分は歴史の舞台に出たり、裏方になったりして、時代の流れの中で評価の重さが変わることがあります。

六年前から地域の人にも開かれた事業を行うことになり、その試みとして、多くの人がかつてあったことが今は変わっている、どうして変わったのか、本当に変わったのか、というような歴史的评价を取り上げています。登壇者には、それぞれ自分の専門として追及していることを発表して貰います。毎回、講義（60分）と質疑応答（30分）で全5回で構成しています。テーマに関し、今までの人生経験で得た知識と体験をフルに活用して、どうしてこうなったのか、みなさんと考えて見ましょう。

◇場 所：岩国福社会館（岩国市麻里布町7-1-2 TEL：0827-22-5877）

◇日 時：原則として第3木曜年間5回 講義 18時30分～19時30分
質疑 19時30分～20時

◇年 会 費：2千円（資料代等） ※水西倶楽部正会員、賛助会員は不要

◇申込み先：全5回を通して事務局へお申込み下さい

事 務 局：岩国市横山2丁目9-18 TEL：0827-43-0005 FAX：0827-44-0150
E-mail：suisai-i@guitar.ocn.ne.jp 兼深・白石・縄田

【講師紹介】

・ 山根利允（やまねとしまさ）

昭和 10 年 2 月、福岡県久留米市生まれ。幼少時、内（東京他）、外（満州 北朝鮮）を転々。県立岩国高卒、大学受験に失敗、現もみじ銀行に在職。大阪支店融資課長で退任して会社経営とホテル監査役を経験。リタイア後、現在 NPO 法人ビジョン岩国理事長。

・ 香川正弘（かがわまさひろ）

昭和 17 年、広島県生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。教育学博士。上智大学名誉教授。全日本大学開放推進機構理事長。趣味社寺巡り。

・ 今石正人（いまいしまさと）

1948 年、広島市生まれ。広島大学文学部英米文学科、米国ピーボディ・カレッジ修士。アメリカ現代文学、特にユダヤ系作家ソール・ベローの研究。広島修道大学名誉教授。セイラム州立大学、啓明大学校で交換教授。著書：『語りとは何か』（笠間書院、共著）、『J. D. サリンジャー文学の研究』（東京白川書院、共著）、『アメリカ文化の構図』（松柏社、共著）。

・ 安達敏雄（あだちとしお）

昭和 28 年、島根県邑南町生まれ。岩国高等学校、山口大学教育学部卒。小学校教諭、教頭、校長と小学校教育一筋。平成 26 年 3 月定年退職。同年 4 月から再任用で、新規採用者の指導に当たる。水西倶楽部会員、蜀紅短歌会会員、地元自治会長。趣味はゴルフと読書と古墳・博物館巡りと畑仕事。

・ 川口隆之（かわぐちたかゆき）

昭和 59 年、岩国市生まれ。奈良大学文学部地理学科卒業。会社員を経て岩国に帰郷。現在水西倶楽部に入会し近現代を勉強中。

趣味 寺社巡りと御朱印収集、ポルトガル語の勉強

(29年度講義日程)

第1回 6月15日(木)

「世界近現代史の中の日本 その自己認識を考える」

山根利允 講師

19世紀の後半、否応なく国際社会の仲間入りを不可避のものとされた吾国日本が、非白人、非キリスト教の民族としては唯一近代化をなしとげ、世界の歴史を大転換させた1945年までの大日本帝国の時代のエピソードなどピックアップすることで、戦後レジーム下で洗脳され主体性を亡くした吾々日本人の自信の回復に役立てたい。

最近数多く散見されるようになった、アメリカ人など外国人によるFake(捏造された)でない歴史観と歴史の事実を紹介する。

第2回 7月20日(木)

「呼子・長門の捕鯨の歴史と文化」

香川正弘 講師

日本列島の周りは、世界でも希な海流渦巻く海の難所ですが、それだけにすぐれた漁場でもあります。漁業のうち、もっとも勇壮なのが鯨漁でしょう。「鯨が一頭捕れると七浦がうるおう」といわれるように、大勢の人が関わって成り立った漁でしたから、鯨組は日本最初の大規模な会社であったといえます。呼子、生月、宇久、長門の通など、鯨漁の基地をあるくと、日本人の鯨に対する深い愛情を知ることができます。金子みすずの「鯨法会」という詩も、心をゆさぶるものがあります。本講義では、鯨漁の仕方と鯨を慈しむ文化についてお話したいと思います。

第3回 10月19日(木)

「移民大国アメリカとトランプ政権」

今石正人 講師

トランプ政権はテロ対策のため中東からの移民を制限しようとしている。9・11同時多発テロの後遺症であるが、単に「危ない国」からの移民を制限しただけで、アメリカの安全が保証されると考えるのは早計であろう。

アメリカは、主にヨーロッパからの移民が、奴隷という「ほとんどタダ」の労働力と、原住民(インディアン)から「ほとんどタダ」で取り上げた広大な土地を利用して築いた多民族国家である。

トランプ政権出現の背景は経済格差、反エリート主義、グローバリズムなど多様であるが、本講義では、いわゆる「有色人種」に対する待遇・差別の歴史を振り返り、トランプ政権を多民族国家という切り口から分析してみたい。

第4回 11月16日(木)

「歴史浪漫 - 古代舟は行く」

安達敏雄 講師

古代の日本各地を繋いだ海の道に思いを巡らし、文化交流の拠点となった幾つかの場所や関係博物館を訪ねます。又、魏志倭人伝の世界にも想像の翼を広げてみたいと思います。

第5回 1月18日(木)

「地政学から読み解く世界の流れ」

川口隆之 講師

地政学という学問をご存知でしょうか？先の大戦で敗戦国となった我が国は、GHQの占領政策の中で地政学を、学ぶことも研究することもできなくなり、闇に葬り去られてしまいました。最近になりようやく注目されるようになりましたが、それだけ世界が動乱と激動の時代に入ったということでしょう。我が国以外のほとんどの国では国家戦略や外交・軍事戦略といった大戦略の基礎となっている地政学を抜きにして、国際情勢を語る事ができません。

我が国では学ぶことができなくなった地政学を、素人にはありますが一緒に学んで考えてみましょう。

全体討議

香川正弘コーディネーター